

「読解リテラシー」の向上を目指した言語活動の工夫

～単元「6年生にメッセージを送ろう」における『走れメロス』の活用を通して～

つくば市立高山真名学園高山中学校 教諭 前嶋 洋子

1 主題設定の理由

(1) 近年の児童生徒の学力・学習状況から

次代を担う子どもたちには、幅広い知識と柔軟な思考に基づいて判断することや、異なる文化や文明との共存を図ることなど、変化に対応する能力や資質が一層求められている。一方、OECD（経済協力開発機構）のPIISA調査など各種の調査からは、思考力・判断力・表現力等に課題が見られた。また、「読解リテラシー」の分野については、情報相互の関係性を理解して解釈したり、自らの知識や経験と結びつけたりすることが苦手であることが指摘された。このような現状を踏まえ、学習指導要領では、思考力・判断力・表現力をはぐくむ観点から言語活動の充実を図ることになった。特に、国語科の「読むこと」の指導においては、読んだことを生かして自分の考えを表現したり、実生活で直面する課題において活用したりする「読解リテラシー」の向上を目指すことが大切であると言える。

(2) 本学園の実態から

本学園の児童生徒は「読むこと」の学習に対して受け身であり、文章に積極的に関わろうとせず、深く読むことができないことが多い。定期テストや実力テスト等においては、内容を読み取る設問にはしっかりと答えようとするが、読み取ったことから自分の考えを書くなどの設問では無回答が目立つ。あらすじをつかむ等、簡単な内容把握をすることはできても、人物について深く考えたり、筆者の意図を捉えたり、自分の考えや思いを言葉で表現したりすることを苦手とする傾向にある。そこで、目的をもって生徒が主体的に読み、読んだことを生かす学習を展開することで、「読解リテラシー」を向上させていく必要があると考えた。

(3) 本学園小中一貫教育と「つくばスタイル科」の視点から

本学園「学びの系統表」における8～9年の内容には、「他者の考えを取り入れ、さらに自分の考えを広げ深めることができる」「互いの立場や意図を理解して、自分の考えを表現し合うことができる」とある。そこで「つくばスタイル科」と関連させ、「中学校課程進級説明会」という場において、8年生にとっては「自分の考えをもち、6年生にメッセージを伝える」6年生にとっては「8年生のメッセージを聞き、自分の考えを広げる」ことのできる場を設けることとした。系統的な学習効果を望めることに加え、国語の授業実践紹介をすることで、6年生の児童にだけでなく、家庭や地域に対しても、自分の思いや考えを話したり、書いたりする取り組みの大切さを周知していくことができると考えた。

2 研究のねらい

第8学年国語科における文学的作品を「読むこと」の学習において、作品を再構成したり、意見交流をしたりすることを通して、自分の考えを体験や知識と結びつけて「6年生へのメッセージ」としてまとめ、伝えることで、「読解リテラシー」の向上を目指す。

3 研究の仮説

(1) 「読むこと」の目的の明確化

「何のためにその作品を読むのか」「読むことによってどういうことを目指すのか」という「読むこと」の目的を明確にすることにより、生徒は主体的に読むことができるようになると思う。「6年生にメッセージを送ろう」という目的をもつことで、目的に応じて主体的に読み、自分の考えを表現することができる「読解リテラシー」の向上につながるであろう。

(2) 「書くこと」の活動と関連させた言語活動

「読むこと」の授業の中に、書き換え（リライト）、後日談や続編、前日談などのスピンオフ作品を創作する「書くこと」の活動を取り入れることによって、登場人物の言動の理由や因果関係、作者の意図などに関する思考を駆使することになると考える。作品を再構成して「書くこと」で、作品をより深く解釈し、自分の考えを表現することができる「読解リテラシー」の向上につながるであろう。

(3) 自分の考えを表現する場の設定

スピンオフ作品創作、意見交流会、中学校課程進級説明会における6年へのメッセージなど、自分の考えを表現する場を設けることによって、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するための「読解リテラシー」の向上につながるであろう。

4 基本的な考え方

(1) 「読解リテラシー」とは

PISAにおいて、「読解リテラシー」とは「自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考し、これに取り組む能力」（国立教育政策研究所）と定義されている。読む行為の段階として「情報へのアクセス・取り出し」「統合・解釈」「熟考・評価」がある。「読解リテラシー」は、攻める読み、アクティブな読みともとらえることができ、目的意識をもって主体的に読むことや、読んだことに対する自分の考えを表現することを重視した読解の力である。

(2) 「読解リテラシー」の3段階について

①「情報へのアクセス・取り出し」

「情報へのアクセス・取り出し」は「テキストに書かれていることを捉えて理解する」と定義されている。文学的作品においては、読解に必要な情報を取り出し、ストーリーやプロット、登場人物について自分の言葉で説明したり、表現したりすることができることである。「読解リテラシー」のプロセスの第1段階である。

②「統合・解釈」

「統合・解釈」は「テキストの内容や筆者の意図などを解釈する」と定義されている。文学作品においては、筆者の意図、登場人物の思考や行動などについて推論し、自分の意見として表現することができることである。本単元では「スピンオフ作品を書く」という言語活動を取り入れる。「読解リテラシー」のプロセスの第2段階である。

③「熟考・評価」

「熟考・評価」は「テキストの内容や表現などを吟味・検討したり、自分の考えをまとめたりする」と定義されている。文学作品においては、自分の考えや体験と結び付け、文章や登場人物を評価・批判し、自分の意見として表現することができることである。また、建設的な話し合いによって学習課題を解決しながら、自分の考えを深めていくことができることも含まれる。本単元では「意見交流会をする」「6年生にメッセージを送る」という言語活動を取り入れる。「読解リテラシー」のプロセスの第3段階である。

つまり「読解リテラシー」は、目的に応じて選んだテキストを読んで情報を取り出し、自らの知識や体験と結びつけて統合・解釈し、自分の考えとしてまとめ、それらを互いに交流することによって熟考・評価するという3段階のプロセスになっている。

(3) 「つくば次世代型スキル」と「読解リテラシー」の共通点

①つくばスタイル科の思考に関するスキル「創造力」

「過去の経験や知識を組み合わせる新しい考えを作り出す力」が思考に関するスキル「創造力」の概

念である。「つくば次世代型スキル」評価規準では、5～7年で「課題を解決するために話し合い、解決のための仮説をつくり出すことができる。」8～9年で「課題を解決するための仮説を、多面的な考えに基づき、自らつくり出すことができる。」とある。これらの「つくば次世代型スキル」の「創造力」の概念や評価規準は、「読解リテラシー」の「自らの知識や体験と結びつけて統合・解釈し、自分の考えとしてまとめ、それらを互いに交流することによって熟考・評価する」というプロセスと共通するところが大きい。

②つくばスタイル科の世界市民としての力「地域や国際社会への市民性」

「よりよい社会の実現のために、まわりの人と積極的に関わろうとする意欲や行動力」が「地域や国際社会への市民性」の概念である。「つくば次世代型スキル」評価規準では、5～7年で「社会的な行動力の基礎を身に付けている。」8～9年で「積極的に社会に貢献する態度をもち、将来の自己の生き方について展望をもっている。」とある。これらの「つくば次世代型スキル」の「地域や国際社会への市民性」の概念や評価規準は、「自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために」という目的と共通するところが大きい。

5 研究の実際

(1) 単元

6年生にメッセージを送ろう 教材名『走れメロス』（東京書籍）

(2) 目標

文学的作品を「読むこと」の学習において、作品を再構成したり、意見交流をしたりすることを通して、自分の考えを体験や知識と結びつけて「6年生へのメッセージ」としてまとめ、伝えることで、「読解リテラシー」の向上を目指す。

(3) 生徒の実態

(平成*年*月*日実施 第8学年*組*名)

	調査内容（本単元における「読解リテラシー」の3段階）	正答者数
1	情景描写や言動から登場人物の心情や人物像を読み取ることができる。 【情報へのアクセス・取り出し】	*名
2	作者の主張、主題について考えることができる。 【統合・解釈】	*名
3	話し合ったことから、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつことができる。 【熟考・評価】	*名

実態調査からは、*名(*%)の生徒が人物描写や情景描写に着目し、登場人物の心情や人物像を捉えることができている。本学級はこれまでに、『字のない葉書』でのリライト（書き換え）、『卒業ホームラン』での人物相関図や物語続き創作など、書く活動を通して人物の心情について捉え、作品を読み深めてきた。「読解リテラシー」の第1段階「情報へのアクセス・取り出し」に関しては概ね習得していると言える。一方、作者の主張や主題を考えたり、知識や体験と関連づけて自分の考えを表現したりする意識は低い。「読解リテラシー」の第2段階「統合・解釈」、第3段階「熟考・評価」に関しては習得しているとは言いがたい状況である。

(4) 指導観

生徒たちは中学校課程進級以来、様々な困難に直面し、それを解決することで日々成長している。『走れメロス』はどの登場人物も義務を投げ出そうとしたり、自分を正当化したり、人間らしい悩みや苦しみを味わうが、最後は自分の醜さや弱さに打ち勝つ。そこで、主題となる正義や勇気、友情、家族愛などと自分の体験を比較しながら読みを深めることができるのではないかと考えた。

本単元では、主人公以外の登場人物に焦点を当てて書き換えたり、物語の続きを書いたりする（スピン

オフ作品を書く)活動を取り入れることとした。『走れメロス』を再構成することにより、人物像や心情を深く捉え、作品の中に自分の考えを表現することができるからである。ここまでの学習活動は、「読解リテラシー」の第1段階「情報へのアクセス・取り出し」、第2段階「統合・解釈」を向上させることがねらいである。

また、スピンオフ作品に対する意見交流会で中学校生活や自分の成長を振り返り、体験と関連付けて自分の考えを「6年生へのメッセージ」としてまとめることとした。『6年生にメッセージを送ろう』という言語活動を設定することにより、相手意識・目的意識が明確となり、学習意欲の持続・向上が図られるであろう。これは、「読解リテラシー」の第3段階「熟考・評価」を向上させるとともに、読解リテラシーの定義「自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考し、これに取り組む能力」に深く関わってくるものであると言える。

(5) 単元計画 (10 時間)

時	学習活動	資料	「読解リテラシー」 との関連
1	・学習の流れを知る。	・学習計画表	情報への アクセス・取り出し 【テキストに書かれていることを捉えて理解する】
2	・通読する。 ・新出漢字や語句を確認する。	・言語獲得シート ・国語辞書	
3	・あらすじをとらえる。	・ヒントカード(要約の仕方)	
4	・登場人物の人物像を捉える。	・ヒントカード(心情把握)	
5	・登場人物の心情の変化を捉える。	・心情曲線	
6	・スピンオフ作品を書く。	・スピンオフ作品構想シート ・スピンオフ作品参考例	統合・解釈 【テキストの内容や筆者の意図などを解釈する】
7	・スピンオフ作品を見直す。 ・意見交流会に向けて自分の考えをまとめる。	・意見交流会準備シート ・司会進行シート	
8 本時	・意見交流会をする。	・意見交流会ワークシート	熟考・評価 【テキストの内容や表現などを吟味・検討したり、自分の考えをまとめたりする】
9	・6年生へのメッセージをまとめる。	・メッセージシート	
10	・中学校課程進級説明会で、6年生にメッセージを送る。 《つくばスタイル科》	・ふりかえりシート ・スタディノート	

(6) 本時の授業

①目標

『走れメロス』スピンオフ作品の意見交流会を通して、登場人物と自分を比べたり、主題を考えたりしながら、中学校生活や自分の成長を振り返ることができる。

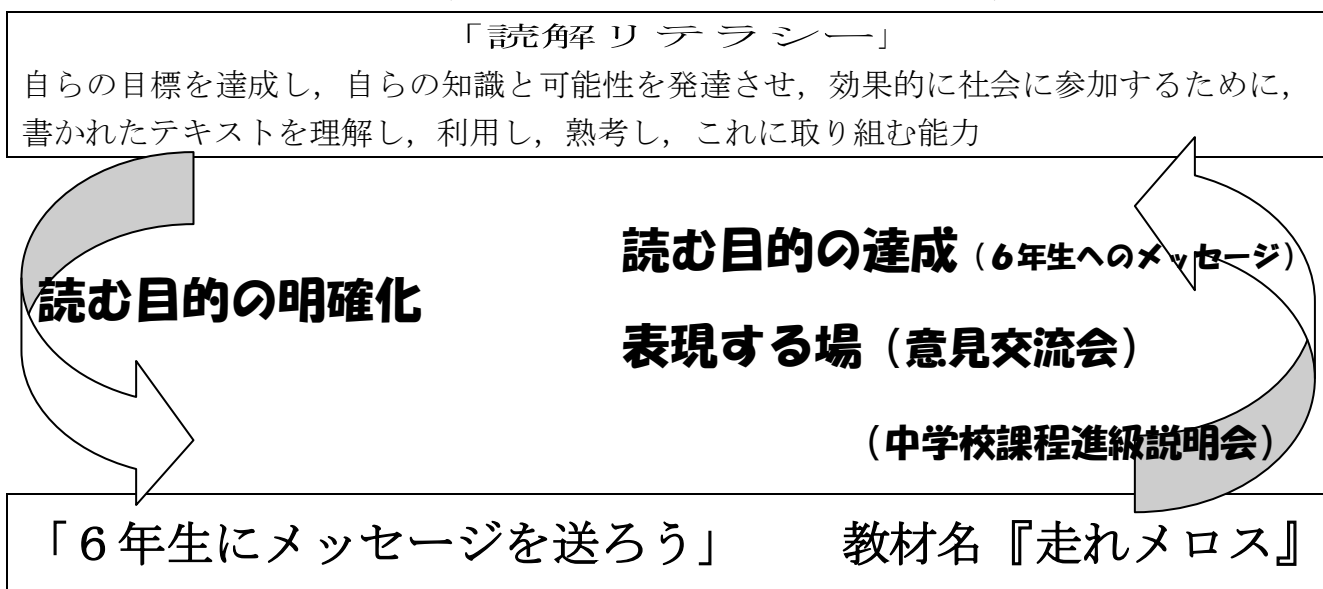
③展開

主な学習活動	教師の支援
1 学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 6年生へのメッセージにつなげたい『走れメロス』のテーマは何か。～スピンオフ作品交流会を通して～ </div>	・学習計画表を掲示し、学習への意欲がもてるようにする。 ・同じ登場人物でスピンオフ作品を書いている生徒同士でグループを構成しておき、自分の

<p>2 自分のスピノフ作品について考えを見直し、意見交流会の準備をする。</p> <p>3 グループで意見の交流をする。</p> <p>(1) スピノフ作品を読み合う。</p> <p>(2) 読んだ感想や質疑応答など、意見交流をする。</p> <p>質問1 人物像をどのよ うに捉えたか。</p> <p>質問2 自分との共通 点、相違点は何 か。</p> <p>質問3 読む人に伝えた いメッセージは 何か。</p> <p>ディオニスは 本当は悪い人 ではない。</p> <p>自分も友だちを 疑ってしまう時 がある。</p> <p>間違ったことは 反省し、直すこと が大切だ。</p> <p>4 グループで出た意見を全体で交流し、『走れメロス』原作の主題について考える。</p> <p>メロスのように最後まであきらめないことが大切だ。</p> <p>セリヌンティウスのように友を信じることが大切だ。</p> <p>5 意見交流会を参考にして、中学校生活や自分の成長を振り返り、自分の考えをまとめる。</p> <p>仲間を信じることで、感動的な体育祭になった。</p> <p>辛かったが、部活動練習を続けることで、上達した。</p> <p>6 メッセージ作成に向けて今後の学習の流れを確認する。</p>	<p>考えが深まるように配慮する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質問1, 2, 3についての答えをあらかじめ考えておくよう促す。 ・良かったところを中心に感想を述べるよう助言し、自信をもって意見が言えるよう配慮する。 ・司会進行シートを準備し、スムーズな意見交流が行えるよう配慮する。 ・質問1, 2, 3以外にも知りたいことがあったら質問するよう促し、意見交流が活発になるよう支援する。 ・質問3は主題につながることを伝え、原作の主題について考えやすいようにする。 ・ジグソー学習を取り入れ、必ず一人一回は他の班で発表できるようにする。 ・違う登場人物の意見をワークシートにメモをするよう助言する。 ・振り返る項目として、学習面・部活面・人間関係面の3つを提示し、自分の体験と関連付けて具体的に振り返ることができるようにする。 ・それぞれの項目で、失敗したこと、困ったこと、どうすれば解決できるかなどを考えるよう助言する。
---	---

(7) 単元を貫く言語活動と「読解リテラシー」のプロセス

単元を貫く各言語活動と「読解リテラシー」との関連についてまとめると、次図のようになる。



書く活動 (スピノフ作品)

【情報へのアクセス・取り出し】
 テキストを書かれていることを捉えて理解する

【統合・解釈】
 テキストの内容や筆者の意図などを解釈する

【熟考・評価】
 テキストの内容や表現などを吟味・検討したり、自分の考えをまとめたりのような読み

登場人物の心情を「心情曲線」で表す。

スピンオフ作品を書く。

意見交流会を通して、主題や6年生へのメッセージを考える。

「書くこと」との関係 表現する場の設定

・状況の変化
 ・心情の変化
 ・因果関係
 ↓
 文脈的理解

・登場人物をどのように捉えたか。
 ・自分の体験との共通点、相違点はあるか。
 ・読む人に伝えたいメッセージは何か。

・主題は何か。
 ・自分の中学校生活を振り返る。
 ・6年生へのメッセージとしてどんなテーマが考えられるか。

出来事

心情

登場人物の役割

筆者の意図

体験との関連

自分の考え

(7) 「読解リテラシー」の向上のための手立て

① 「学習計画表」による読みの価値付け

PISA調査は、読解の知識や技能を実生活で直面する課題においてどの程度活用できるかを評価することを目的としている。これは、現行学習指導要領がねらいとしている「生きる力」「確かな学力」と同じ方向性にある

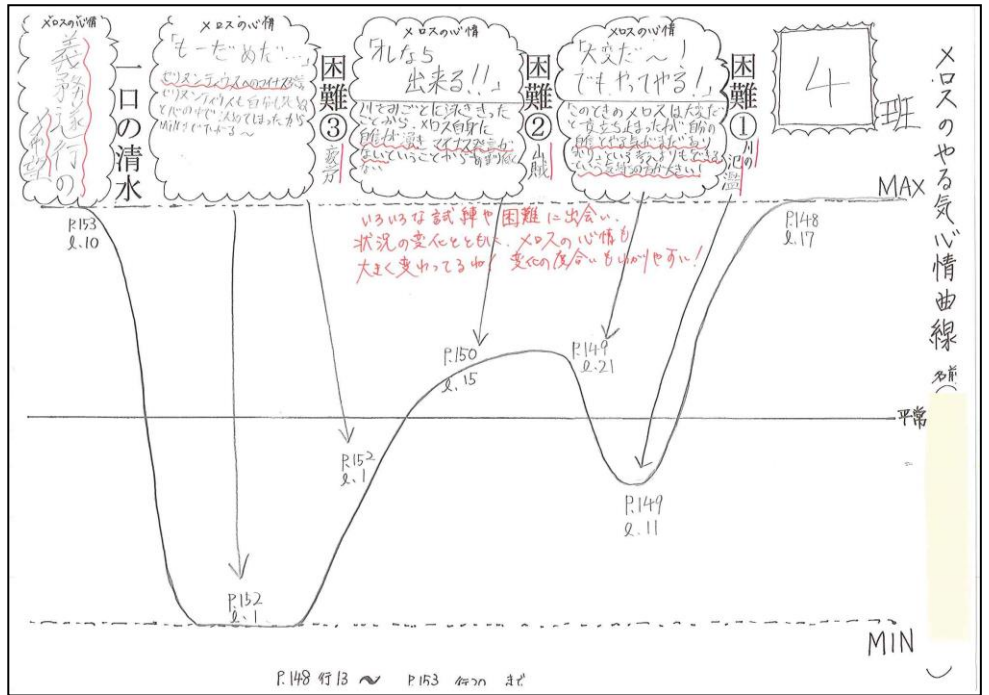
9	8	7	6	5	4	3	2	1	時間	学習内容	学習者のため・感想	自己評価	先生欄	
・6年生にメッセージを送る。	・6年生へのメッセージを作る。(どのように?)	・意見交流会をする。(6年生へのメッセージにつながる内容やテーマ)	・スピンオフ作品を作る。	・登場人物の心情の変化をとらえる。	・登場人物の人物像をとらえる。	・あらすじをとらえる。	・通読する。 ・新出漢字や語句を確認する。	・学習の流れを知る。		6年生にメッセージを送ろう【走れメロス】	僕たちも様々な試練に立ち向かってきた!	学習者のため・感想	自己評価	先生欄
どのようにならぬかを考えた。	走れメロスから交流で信じるというメッセージを考えた。	大抵のこと柄を信じて、他の人にも伝えたいことを考えた。	セリス、エロス、エモス、新を表現した。	心情の変化の場面がよく分かった。	登場人物の性格がよくなった。	大抵、分かった。	読み方、難し。	流れを理解できた。	かまぼこ、流水を理解できた。	かまぼこ、流水、読み方、難し。	A	A	6年生へのメッセージを送ろう【走れメロス】	
中学校生活に活かしていきたい。	自分たちの生活で感じたことを、6年生に伝える。	自分たちの生活で感じたことを、6年生に伝える。	自分たちの生活で感じたことを、6年生に伝える。	自分たちの生活で感じたことを、6年生に伝える。	自分たちの生活で感じたことを、6年生に伝える。	自分たちの生活で感じたことを、6年生に伝える。	自分たちの生活で感じたことを、6年生に伝える。	自分たちの生活で感じたことを、6年生に伝える。	自分たちの生活で感じたことを、6年生に伝える。	自分たちの生活で感じたことを、6年生に伝える。	A	A	自分たちの生活で感じたことを、6年生に伝える。	

資料①【学習計画表】

と言える。つまり、「読解リテラシー」を向上させるためには、まず「何のためにその作品を読むのか」「実生活において、読んだことをどのように活用するのか」といった目的を明確にした指導が必要なのである。そこで、毎時間、常に「6年生にメッセージを送ろう」という目的意識、相手意識をもちながら主体的に学習を進めることができるよう、学習計画表を活用した。また、教師のコメントを入れることによって次時への意欲につながるようにした。

② 「心情曲線」による「情報へのアクセス・取り出し」と文脈的理解

「読解リテラシー」を向上させるためには、まず作品の文脈をきちんと理解することが必要である。また、作品の文脈を理解するためには、作品の全体構造を把握することも不可欠である。特に文学作品では、取り巻く状況の変化に伴って登場人物の心情も変化し、大きく変容する。作品の全体構造



資料②【心情曲線】

造を文脈的に理解するためには、作品に組み込まれている情報を取り出し、相互に関連付けていかなければならない。そこで、登場人物の心情が、何をきっかけとして、どのように変化したのか、その因果関係を捉えることができるようにするために心情曲線を活用した。作品中から取り出した言語情報を図式化することにより、文脈的理解と「情報へのアクセス・取り出し」を連動した形で「読解リテラシー」の向上が図られるようにした。

③「スピノフ作品」による「統合・解釈」の焦点化

「読解リテラシー」を向上させるためには、テキストの内容や筆者の意図などを解釈する「統合・解釈」の段階を意識した学習活動が不可欠である。本単元では、スピノフ作品を書くことを通して、人物像やその因果関係、筆者からのメッセージなどを自分なりに解釈していくことにした。ワークシートは「視点の換え方」「設定の仕方」といったスピノフ作品の書き方に関する項目だけでなく、「登場人物をどのように捉えたか」「自分の体験との共通点・相違点」「読む人に伝えたいメッセージ」という項目を挙げ、「統合・解釈」の焦点化を図った。「登場人物をどのように捉えたか」では、登場人物がなぜそのような行動をしたのかという理由や出来事の因果関係を考えることになる。理由や因果関係などを考えることは、文章を分析・解釈することであり、「読解リテラシー」の向上につながっていく。「自分の体験との共通点、相違点」でも、作品と実生活を結びつけて解釈することで、登場人物やその行動について納得・共感したり、疑問や批判が生じたりし、「読解リテラシー」の向上につながっていくと考えられる。「読む人に伝えたいメッセージ」は、主題を考えることと連動している。主題とは、作者がその作品を通して読者に伝えようとしていること、願いなどである。しかし、本単元では、作品を通して自分の考えをまとめることが目的であるため、作品から最も強く感じたことや受け取ったメッセージを「読む人に伝えたいメッセージ」としてスピノフ作品に組み込み、自分の考えにつなげていくこととした。

【六年生にメッセージを送ろう】「走れメロス」

「僕たちも 様々な試練に 立ち向かってきた」

意見交換会に向けて自分の考えをまとめておこう。

特に①②③④⑤はできるだけ詳しく具体的に

① 視点は誰か？（ゼリマニニテイクス）

② どんな設定にしたのか？（ゼリマニニテイクスとメロスの幼少期の話）

③ 人物像をどのように捉えたか。（自分の作品の視点となった人物以外も）

メロス（強くて正義感がある）

ゼリマニニテイクス（弱虫で独りだった）

ディオニス（X）

その他（いじめっ子も涙の涙）

④ 自分たちの中学校生活（学習面・部活動面・人間関係など）と重ねてみて

共通できる部分（友達や自分の人生を変えたいこと）

共通できない部分（いじめられてる人との距離感）

つづいて読んで脚づかれること

⑤ 読む人に伝えたいメッセージは「自分の行動を周りの人に伝えられる」

変えられる

走れメロス（X）の行動が王様を助けたこと

資料③【スピノフ作品構想シート】

「登場人物をどのように捉えたか」では、登場人物がなぜそのような行動をしたのかという理由や出来事の因果関係を考えることになる。理由や因果関係などを考えることは、文章を分析・解釈することであり、「読解リテラシー」の向上につながっていく。「自分の体験との共通点、相違点」でも、作品と実生活を結びつけて解釈することで、登場人物やその行動について納得・共感したり、疑問や批判が生じたりし、「読解リテラシー」の向上につながっていくと考えられる。「読む人に伝えたいメッセージ」は、主題を考えることと連動している。主題とは、作者がその作品を通して読者に伝えようとしていること、願いなどである。しかし、本単元では、作品を通して自分の考えをまとめることが目的であるため、作品から最も強く感じたことや受け取ったメッセージを「読む人に伝えたいメッセージ」としてスピノフ作品に組み込み、自分の考えにつなげていくこととした。

④ 「スピノフ作品参考例」による意欲付け

書くことに対しては、抵抗感や苦手意識のある生徒もいる。そこでグッドモデルとして「スピノフ作品参考例」を示した。様々な難易度の作品例をいくつか示すことで、どの生徒も「面白そうだ。」「これなら自分も書けそうだ。」という意欲がもてるようにした。

⑤ 「意見交流会ワークシート」による「熟考・評価」の可視化

話し合いの流れに沿って自分の意見を書き込んだり、新たに発見した意見と見比べてたりしながら主題について考えることができるようワークシートを工夫した。さらに、中学校生活での体験と関連付けて自分の考えをま

① グループ内意見交流

班	7	8	9	7	2
感想・質問	人々を救うこと、大切な事だ。	人を救うこと、大切な事だ。	人を救うこと、大切な事だ。	人を救うこと、大切な事だ。	人を救うこと、大切な事だ。

② グループ内意見交流

「走れメロス」の作者が私たちに伝えたいメッセージについて、話し合おう。

(6) 視点(メロス) 友を信じることの大切さ

③ 自分について振り返ろう。

中学校生活振り返り、それぞれの場面での出来事や気づき、対話・個別があり、その上での意見交換、立ち向かってきたかを振り返る。

人間的成長
この経験が自分にとっての成長になるように、自分自身を振り返り、成長を促す。

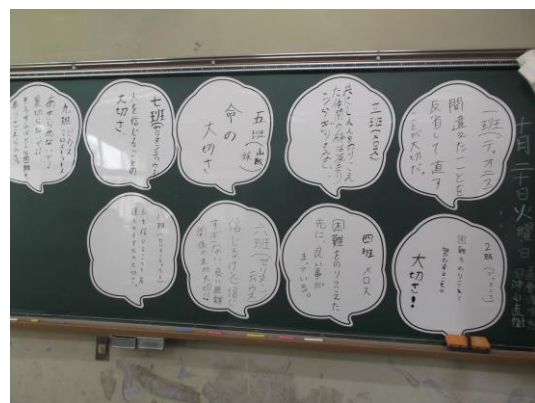
その他
この経験が自分にとっての成長になるように、自分自身を振り返り、成長を促す。

資料④【意見交流会ワークシート】

とめ、最終的に「6年生へのメッセージ」へつながっていくようにした。学習手順と交流内容を可視化することにより、自分の意見から自分たちの意見、自分たちの意見から全体の意見へと思考の幅が広がり、それぞれの意見を吟味・検討することによって「熟考・評価」することができた。



資料⑤【グループ内意見交流の様子】



資料⑥【各グループが考えた主題】

6 成果と課題

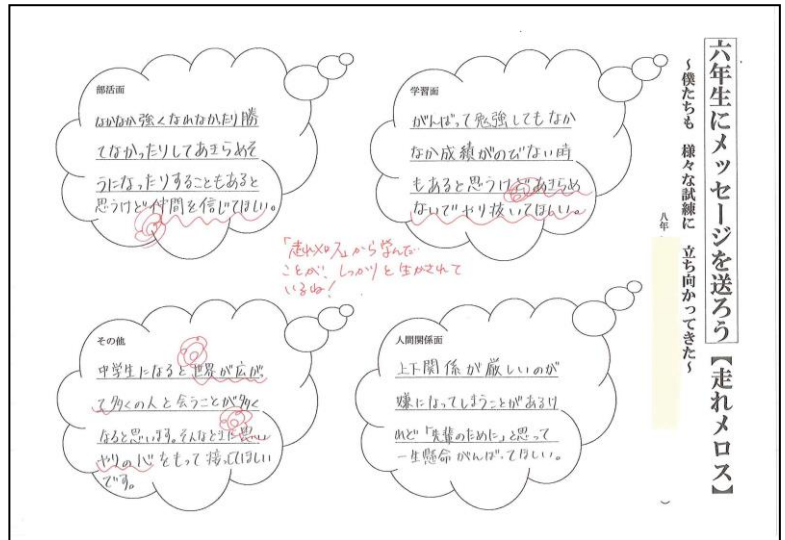
(1) 研究の成果

① 「読むこと」の目的の明確化

「何のためにその作品を読むのか」「読むことによってどういうことを目指すのか」という「読むこと」の目的を明確にすることにより、生徒は「6年生の不安や心配を少しでも取り除き、希望をもって中学校課程に進級することができるようなメッセージを送ろう」という意欲をもち、主体的に『走れメロス』という作品を読むことができた。「中学校生活に関して6年生にアドバイスをしたい」とい

う意識も芽生え、作品の内容を自分のこれまでの中学校生活とを結びつけて解釈することにもつながった。学習計画表を提示し、各時間の学習活動の目的を明確にしたことも、意欲を持続させることにつながった。

「つくば次世代型スキル」評価規準である「積極的に社会に貢献する態度」を維持しながら一人一人が学習を進めることができると言えるであろう。また、「読解リテラシー」の定義である「自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために」という主体的な学びの姿勢も身に付いたと言える。



資料⑦【6年生へのメッセージ】

「主体的な学びの姿勢も身に付いたと言える。」

【主な「6年生へのメッセージ」の記述例】

- ・勉強に対していろいろ不安とかあるだろうけど、授業に集中し、分からないところは友達や先生にたよることも大切だよ。あきらめないで頑張れば、必ず結果はついてくる。→【熟考・評価】主人公メロスの行動から、自分の考えを「6年生へのメッセージ」としてまとめている。
- ・けんかをしても、自分の言動を振り返り、互いに理解し合うと、改めて友達の大切さを知ることができるよ。人を信じることができれば、友達がたくさんできると思います。→【熟考・評価】王様ディオニスの変化から、自分の考えを「6年生へのメッセージ」としてまとめている。
- ・私は、部活でくじけそうになったとき、支えてくれた友達のおかげで立ち向かうことができました。あきらめそうになっても、最後まで仲間を信じて頑張ってほしいです。→【熟考・評価】友人セリヌンティウスの葛藤から、自分の考えを「6年生へのメッセージ」としてまとめている。

②「書くこと」の活動と関連させた言語活動

「登場人物をどのように捉えたか」「自分の体験との共通点・相違点」「読む人に伝えたいメッセージ」という項目で「統合・解釈」の焦点化を図ったことにより、登場人物の言動の理由や因果関係、作者の意図などを考えながらスピンオフ作品に取り組むことができた。また、作品と自分の知識や体験との共通点・相違点を考えることで、登場人物やその行動について納得・共感したり、批判したりする記述も見られた。自分の考えとして「読む人に伝えたいメッセージ」を組み込んだスピンオフ作品を仕上げることでできた生徒が多かった。「読むこと」の授業の中に、作品を再構成して「書くこと」の活動を取り入れたことで、作品をより深く解釈することとなり、自分の考えを表現することができる「読解リテラシー」の向上につながったと言える。

【主な「スピンオフ作品」の記述例】

視点：セリヌンティウス（主人公の友人） **設定**：メロス（主人公）との幼少期の出会い

幼少期の私は弱虫で内気で友達の一人もいないような少年だった。あの日もいつものように私は子どもたちにバカにされていた。…（中略）…「俺の名前はメロス！悪いことをするやつらは許さない！」それが私セリヌンティウスとメロスとの出会いであった。メロスはひとりぼっちだった私の無二の友になった。彼のおかげで強くなれたし、夢を見つけることもできた。彼がいたから今の自分があるのだ。感謝してもしきれない。私は決めたのだ。助けられたあの日から何があっても彼を信じ続けると。…彼、セリヌンティウスはまだ知らない。彼の決意が、彼らの絆が、人々を救いやがて世界を変えることになろうとは…。→【統合・解釈】「友達が自分の人生を変える、自分の行動で周りの人を変えられる」というメッセージを表現することができている。

③自分の考えを表現する場の設定

スピノフ作品創作、意見交流会、中学校課程進級説明会における6年へのメッセージなど、自分の考えを表現する場の存在によって、相手意識・目的意識をもって主体的に「読むこと」の学習に取り組むことができた。自分の考えをスピノフ作品に書くことの楽しさ、交流によって見つけた新たな発見、自分の考えを伝えることや相手の役に立つことの喜びなどが、一人一人の生徒の知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するための「読解リテラシー」を向上させたと言える。

【本単元終了後の生徒の感想例】

- ・「字のない葉書」や「卒業ホームラン」でもスピノフ作品を書いたけど、今回は意見交流会でたくさんの人の文章を読めたし、考え方も自分と違っているところがあっておもしろかったです。→【熟考・評価】**意見交流によって考えを深めることができています。**
- ・「走れメロス」から「友達との絆」などのヒントを見つけて、6年生へのメッセージもみんなと相談して考えることができました。6年生が真剣に聞いてくれたのでよかったです。→【熟考・評価】**自分の考えを伝えることや相手の役に立つことの大切さを実感することができています。**



資料⑧【グループ間交流の様子】



資料⑨【中学校課程進級説明会の様子】

(2) 今後の課題

- ・ 本研究では、教科書教材の文学作品を中心とした言語活動を行ったが、今後は実生活の中から教材を開発するなど、いわゆる「非連続型テキスト」による言語活動にも取り組んでいきたい。
- ・ グループ内やグループ間での意見交流、ジグソー学習などは活発に進めることができるようになってきたが、全体交流では発言者に偏りが見られる。全体交流を活性化させる方法を模索していきたい。
- ・ 本単元では、つくばスタイル科と連携しながら言語活動に取り組んだが、今後は他教科とも連携を図りたい。
- ・ 各学年の発達段階を考慮し、「読解リテラシー」のプロセスに合わせた言語活動をすることで、小中一貫教育に貢献していきたい。

(参考文献)

文部科学省 (2008) 『中学校学習指導要領解説 国語編』 東洋館出版社

文部科学省 (2012) 『言語活動に関する指導事例集』 教育出版

茨城県教育委員会 (2015) 『平成27年度学校教育指導方針』 茨城県教育センター

つくば市教育委員会 (2015) 『平成27年度学校教育指導方針』 教育委員会教育指導課

つくば市総合教育研究所編著 (2012) 『新設「つくばスタイル科」の取り組み』 東京書籍

文部科学省 (2015) 『「読解力」向上に関する指導資料』

伊崎一夫 (2008) 『PISA型「読解力」の具体化—工夫改善における三つのポイント』 日本国語教育学会